

談山雅楽会のプロフィール



多武峰の談山神社に所属し、祭典で雅楽を演奏するため、大化の改新後1350年を記念して1995年に発足。地元桜井市以外に大阪・三重・奈良から僧侶・会社員・自営業・主婦など雅楽好きが集結。談山神社は基より、他の神社やお寺、お葬式や結婚式、イベントなどで年20回程度演奏。2008年には日仏友好のためシャトル市の商業フェア特設舞台・コンサートホール・大聖堂で演奏。会員募集中。2月より入会希望者を対象に講習会を開催します。お問い合わせはこちらまで 080-3793-4973 松本

演 目

春鶯囀（しゅんのうでん---春のうぐいすのさえずり）

四箇大曲（しかのたいきょく）の一つで、鶯の鳴き声を元に作曲された曲と言われている。遊声・序・颯踏・入破・鳥声・急声の六楽章からなり、数少ない風格の楽曲。全曲の演奏は、一時間近くに及ぶ長大な曲のため、一定の拍節（リズム）を持たないゆったりとした遊声（ゆうせい）、はっきりとした拍節を持ち優美な颯踏（さつとう）、よりテンポを持たせ小気味よい急声（きっしょう）の三曲を抜粋。舞を伴う舞楽で奏されるが、今回はより優雅な管弦形式で演奏。

蘇合香（そこう）

四箇大曲の一つで、天竺のアショカ王の病気を蘇合香により治った事により作曲された。遣唐使により伝わった序・破・急からなる楽曲。一帖から五帖で構成される序の内、二帖のみが欠落した序と、破・急が現在も残る。中でも序一帖は、序・破・急をそなえた珍しい楽曲。序・破・急のテンポがわかる舞楽吹き形式で演奏。

神楽 浦安の舞（かぐら うらやすのまい）

「天地（あめつち）の 神にぞ祈る 朝なぎの 海のごとくに 波たたぬ世を」1933年（昭和8年）に昭和天皇がお詠みになられたこの御製が歌詞になっています。「朝、海の波が、鏡のように静かで、穏やかなように、今の世の中も平和で争いのない世界になりますように」という意味が込められています。因みに「浦」は「こころ」、「安」は「安らぎ」のこと。

舞楽 蘭陵王（ぶがく らんりょうおう）

唐楽に属する壱越調の一人舞で、華麗に装飾された仮面を被る勇壮な走り舞。由来は唐の時代、北斎蘭陵武王・高長恭は、わずか五百騎で敵の大軍を破り洛陽を包囲するほどの名将であったが、美しい声と優れた美貌であったため、兵隊が見惚れて士気が上がらず、敵に侮られるのを恐れ、いつも獐猛な仮面を被って出陣したと言うもの。

長慶子（ちょうげいし）

太食調（たいしきちょう）の曲で、行事が終わり参加者が退出する時に奏されてきた。現代でも演奏会の最後に奏することが多い。最近の映画で陰陽師0でも登場する平安時代に笛の名手と言われた源博雅の作とも伝わる楽曲。

バス時刻表



桜井市コミュニティバス 多武峯線

談山神社行き	乗車時刻	到着時刻
	10:50	~ 10:55
桜井駅南口より	12:50	~ 12:55
↓	14:00	~ 14:05
神之森町下車	15:05	~ 15:10

桜井駅南口行き	乗車時刻	到着時刻
	13:35	~ 13:42
神之森町より	14:47	~ 14:55
↓	15:51	~ 15:59
桜井駅南口下車	16:55	~ 17:02